
神さまとぼくらの世界観

blurd

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神さまとぼくらの世界観

【Nコード】

N5222V

【作者名】

blurd

【あらすじ】

即興詩集の総集編です。

(前書き)

即興詩集の総集編です。感想、評価お願いします

もう終わったはず

なのに生きてる

これはなんなの

神様教えて

あ、まちがったごめん

だってぼくらが

「神様」

けどわからない この意味が

教えてもらうにも

誰もいない

でもさ、だってさ

君が望んだことなんでしょ

もういいです

頑張って努力して飽きました

もうどうだっていいだから

ぼくらは堕ちて人になる

もしもこの世に神様がいたら

ぼくらは何を願っていたのだろう

もしもぼくらが神様だったら

他人の願いは聞いていたのだろうか

ぼくらは毎日天を仰ぎ

手を伸ばし

何かを願っていたんだよ

そんなぼくに 君は言った

「ぼくらが神様だったんだよ」

全てが遠回りのこの世界

来世の自分にさようなら

神さまが罰を与えろというなら

それは人間もおなじこと

そんな世界に嫌気がさした

君はぼくに こういった

「ぼくらはただの、人間だ」

ぼくだけなぜかとり残されて

暗くて深い闇を通ったよ

その中で思いだしたんだ

そういえば昔もこうだったね

歴史は繰り返すと言うけれど

それはまさにこのことだね

一度見たような景色を

何回も来てたはずだけど

そのたび記憶は薄れてく

1・2・3の後に来るのは

何故か知らないけど0だった。

「ばかって言った方がばかだ」

そんな声が聞こえます

だったら言わせてもらおうけど

結局両方ばかなんでしょ

ぼくだけなぜか仲間はずれ

考えたってわからないよ

そんな中で思ってたんだ

昔も今も同じだと

彼が僕をおいてけぼりにしたとき

彼は僕を待ってくれないだろう

僕が彼をおいてけぼりにしたとき

僕は彼を待つことはしないだろう

もしも神様が僕達をつくったならば

神様は僕達をおいてけぼりにしたのだろうか

もう 待ってはくれないのだろうか

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5222v/>

神さまとぼくらの世界観

2011年10月8日04時54分発行